



令和6年度 勝山市立勝山中部中学校スクールプラン

勝山市教育大綱（学校教育）

新しい時代にたくましく生きる力を育む

- (1) 力強く自立した人材の育成
- (2) 家庭・地域・学校の連携推進
- (3) 「ふるさと創生」の担い手育成
- (4) ICT活用の推進
- (5) 教育環境の充実・向上

最上位目標（校訓）
奮起 ・ 自主 ・ 協同

育成指針
自立自走・調和

めざす生徒像

- ・ 自立した生徒
- ・ 社会と調和して暮らせる生徒
- ・ 自分には能力があると思える生徒
- ・ 周囲の人々に仲間意識を持てる生徒

研究主題「助け合い、認め合い、成長し合える関係づくりの推進」

－ポジティブ教育の考え方を活かして キーワード：「つながり」「安心感」－

3部会構成と重点目標

学習部会

主体的に、自立して学ぶ生徒を育成するための学校環境を整える。
・ 学力向上・ポジティブ教育・探究・情報

特活部会

より良い学校生活について、生徒が見通しをもって具体的に考え、行動できる。
・ 生徒会活動 ・ 学級活動 ・ 体力向上

生活部会

互いに快適な学校生活を送れるよう、生徒が主体的に考え、行動できる。
・ 生徒指導・食育・個に応じた支援・環境整備

ふるさと教育と地域連携

ユネスコスクールとしてESDを推進し、中学生としての地域貢献を目指す。地域に根付いた学校づくりを推進し、ふるさと創生の担い手を育成する。
・ 探究、生徒会活動の活性化・社会人材活用

実践プロジェクトと評価

◆授業づくりプロジェクト

生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、粘り強く取り組める授業づくりを進める。
【評価】主体的に学習に取り組むことができた。(90%以上)

◆つながりプロジェクト
ポジティブ教育の手法を活かし、生徒同士、教員と生徒のつながりを深め、安心できる環境を作る。
【評価】クラスや学年の仲間と互いに支え合うことができた。(90%以上)

◆探究プロジェクト（ESD含む）
勝山の魅力を再認識し視野を広げ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育む。
【評価】探究活動を通し、自分で設定した課題の解決を進めることができた。(80%以上)

◆情報スキルアッププロジェクト
タブレット（個人端末）を効果的に活用できる。
【評価】タブレットを適切に使うことができた。(100%)

◆生徒会活動活性化プロジェクト

生徒一人一人が生徒会活動を通して目標や夢の実現に向けて、見通しをもって計画し、活動できる環境を整える。
【評価】委員会活動等で、より良い学校生活について考え計画的に活動できた。(90%以上)

◆学級活動「1人1役」プロジェクト
それぞれが自分の役割を果たそうとすること、互いに認め合える仕組みづくりを工夫することにより、集団への所属感や事故有用感を高める工夫をする。
【評価】学級で、自分の役割を果たすことができた。(90%以上)

◆体力アップアッププロジェクト
健康で活力ある生活を送るために、自ら進んで体力を向上させることができる。
【評価】授業や部活動、行事等を通して、自らの体力を向上させることができた。(90%以上)

◆生徒指導の自分事化プロジェクト
安心して快適な学校生活を送れるよう、きまりを守り適切に判断し行動できる生徒を育む。
【評価】生活のきまりを守り、安全で快適に学校生活を送ることができた。(80%以上)

◆食教育推進プロジェクト
食や生活習慣に目を向け、将来にわたって健康な身体づくりができるような生徒を育む。
【評価】感謝の気持ちを持ち、食に向き合うことができた。(80%以上)

◆インクルーシブプロジェクト
生徒同士や生徒と教師で自分の思いを伝え合い、その思いを知り、認め合い、支え合う学校風土を育む。
【評価】仲間1人1人の個性や考え方を認め、尊重し合うことができた。(100%)

◆環境美化プロジェクト
美化活動や環境保全活動を通して、生徒自ら気持ちの良い生活環境を作る。
【評価】黙勤清掃や委員会活動を通して、自分たちでより良い環境づくりに取り組むことができた。(90%以上)

実践の方向性

◆探究活動および生徒会活動とESD
探究活動や生徒会活動の目標に、生徒による「発信」とどまらない「地域貢献」や「提言」「参画」を設定し、中学生がすでに地域社会の担い手であることを体験的に学ぶ。

◆自立した中学生としての生活
学習活動や生徒会活動などに際し、「時間」「場所」「もの」を環境設定し、生徒が自分たちで考えて活動できる環境づくりを意識する。(大人が身代わりに何かすることを慎む。)

◆学校外の人材の活用
学校外の専門家を招き、「プロから学ぶ」機会を積極的に取り入れる。

◆積極的な三中学校の交流推進
連合行事や探究活動、生徒会活動、授業の場面などで互いに学ぶ機会を計画的に設定する。

◆近隣の高校との連携
生徒会活動や部活動、探究活動の成果発表など、できることから高校生の力を借りた学び合いの場を設定する。